地域おこし協力隊 奮闘記 Vol.17

「もひとり神事を体験」

地域おこし協力隊 観光部門で活動している坂口彰広（さかぐち・あきひろ）です。

地域おこし協力隊として着任し、4か月がたちました。さまざまな体験をする中で、特に印象的だったのが、7月に行われた大山の「もひとり神事」です。

もひとり神事は、大神山神社奥宮で行われる夕祭と派遣祭、夜中に山頂の岩室で霊水と薬草を採取する山頂祭、下山後の正祭からなります。鳥取県の無形民俗文化財にも指定されており、昔からの伝統を残す貴重な神事です。私は学生の頃から土着の神事や祭りにとても興味がありましたが、観客として参加するのが常でした。このように自分が直に神事にのぞむというのは初めての経験で、とてもうれしかったです。

夕祭後の直会では、地域のみなさんが持ち寄った料理で飲食を共にしました。そこには私の日常にはない空間が広がっていて、地域に根ざした祭りの醍醐味を味わいました。

また、大山寺による写経と経筒埋納をともなう『弥山禅定』という古くからの修行が、廃仏毀釈の影響で現在の神事の形へと変化していったことなど、大山の歴史的、文化的に興味深い話も聞かせていただきました。神事でありながらまったく堅苦しくなく、地元の方や宮司さんとの交流を深めることができました。

▶神水と薬草を背負って（下山途中）

直会が終わると、仮眠をとって夜中1時半に正使・副使、先達、強力、信者の計20名が派遣祭を受けたのち、真っ暗闇の大山に登っていきました。

ヘッドライトの小さい光以外は何も見えない暗闇のなかを黙々と登っていくと、自分の体が大山と一体化していくような感覚を覚えました。見上げれば、手が届くのではと思うぐらいの星空の明るさにビックリしました。

途中から天候が変わってしまい、山頂で朝日を拝むことはできませんでしたが、雲の合間からもれてくる光は、街中で見るそれとは全く違い、とても幻想的でした。このように、もひとり神事で体験したことは日常から逸脱したものばかりでした。

今回はもひとり神事を取り上げましたが、刺激的な経験をたくさんさせてもらっています。今後、さらにいろいろな場所に出かけて体験をし、それらを外部に向けて発信したいと思います。

▲神水を汲みます

▲無事に下山!皆さんが出迎えてくださいました

▲神楽が奉納されました（夕祭）